



すずき
鈴木

よしかず
賢和 議員



**避難所運営を中心とした
災害対策は**

問 介護福祉施設における携帯・簡易トイレの備蓄状況の確認と支援は。

答 各施設のトイレの備蓄数は、今後、確認を行い、備蓄が足りない施設には、啓発活動を行い、発災後施設において不足が生じた場合には、支援をしたい。

問 トイレトレーニングの整備の検討は。

答 現時点では、導入しない方針であるが、能登半島地震では移動トイレによる助け合いが行われたことも事実であるので、今後、全国における導入状況を注視し、また、南海トラフ巨大地震を想定した活用も含め、導入に関わる制度や費用対効果など研究していきたい。



防災訓練の様子

**こども基本法の
取組状況は**

問 子どもの意見を聴く取組のファシリテーターに、どのような人材を確保し、育成するのか。

答 必要に応じて外部人材を活用することにも考えているが、主には学校などにおいて、子どもたちの意見・議論を引き出す経験を豊富に積んできた市教育委員会事務局内の指導主事を充てることとしている。



さの
佐野

たけし
武次 議員



**職場における*カスハラへの
対応は**

問 近年、度を越えたクレームや要求などの迷惑行為が官民間わず増加している。職員が安心して業務が遂行できるよう、どう対応しているか。

答 カスハラ監視と抑制のため、来庁者のプライバシーへの配慮も念頭に置いて、防犯カメラや録音機能を備えた電話を設置しているが、組織として、適切に対応する体制の整備やトラブル被害を防止するための取組などを盛り込んだ、対策マニュアルがないため、先進市の事例も参考として策定作業を進めている。

また、条例の制定に向けては、直面する課題にスピーディーに対応するため、まずはマニュアルの策定を進め、条例制定は、民間企業も含めたカスハラ防止対策への抑制や効果など、他の自治体の制定の動向を注視していきたい。

*カスハラ＝ハラスメント



小学校の複合遊具

小学校の遊具

問 遊具は、子どもたちの身体的能力を高め、社会性や道徳心を育むが、安全点検や老朽化により撤去した遊具には、どう対応しているか。

答 毎月の教職員による定期点検に加え、専門業者の点検を年2回実施している。遊具の復旧は、種類や大きさを変更した更新などを含め、計画的な整備を検討したい。



くろいわ
黒岩

やすこ
靖子 議員



**資源ごみと埋立ごみの
収集方法**

問 自治会によっては収集の時間はさまざまだが、月2回の収集にあたり早朝の当番制が多く、働き盛りや子育て中の人には負担が多い。立会人がいるとごみが出しにくいという人もいる。当番制をやめ曜日ごとに種別の収集日を作る考えはあるか。

答 令和2年度に市議会の「ごみ減量化特別委員会」において検討された経緯があり、全体の4分の1の自治会で立ち会いをなくすことで分別レベルが低下し、自治会役員の負担が増加するなどの意見により、現在の集団回収の仕組みを継続している。将来的には、立ち会いがなくても適切に分別できることが望ましいため、職員が各自治会に出向き、資源回収に立ち会いながら、分別指導を行うなどの取組により、分別意識の向上を図りたい。



自治会による資源ごみ収集の様子

子どもの食育と給食

問 子どもたちが健康で成長するために、地元の栽培期間中農薬不使用野菜や有機農業で作る野菜、見た目が悪いだけで廃棄される野菜を、学校給食で使ってほしいが方針はどうか。

答 「日本一健康文化の給食」を目指し、地元の安全な野菜で、今後も、安全・安心でおいしい給食を提供したい。